

生涯の健康の礎を創る！

ライフステージ別に”診る”ポイントとは？

口腔育成

🕒 11:10~12:10



講師

DH 歌田 紗季 先生

ご略歴

2011年 新東京歯科衛生士学校卒業
2011年 都内一般歯科勤務
2023年 日本歯周病学会認定歯科衛生士
2025年 立川北デンタルオフィス勤務

歯周治療を専門とし、乳幼児から高齢者まで各世代の口腔管理に携わる。根本原因へのアプローチから口腔育成の重要性に着目し、予防から再建までを支える歯科衛生士として活動。地域医療における歯科の役割拡大を目指し、多職種連携や啓発活動にも力を注いでいる。



歯の喪失に関与する主な三大要素として、

う蝕

歯周病

咬合の不調和

が挙げられます。

これらはそれぞれ独立した疾患ですが、実際の臨床においては相互に関連し合い、複雑に進行することが多いからです。

したがって、歯の保存と口腔機能の維持には、個々の要因に対する対症的な対応に留まらず、**包括的かつ予防的な視点からの介入**が不可欠です。

本講演では、日常臨床において私たちが実践するアプローチを紹介いたします。

う蝕予防に対してはブラッシング指導やフッ素応用、歯周病にはブラークコントロールの徹底と生活習慣への介入、さらに咬合管理としては早期からの咬合評価と必要に応じた咬合治療・矯正治療などの提案。また、これらの疾患の背景には呼吸、嚥下、姿勢、栄養、習癖などの全身的・発育的因子が関与しており、特に小児期における「口腔育成」の重要性が近年注目されています。

さらに、歯周治療は歯の延命だけでなく、全身疾患との関連を見据えた健康維持においても極めて重要な役割を担います。

歯の喪失を予防するために、個々の病態を点として捉えるのではなく、口腔と全身のつながりを理解したうえで歯科だけに限らず、医療全体として線/面として包括的に診る姿勢の必要性を提言します。